

連珠っておもしろい

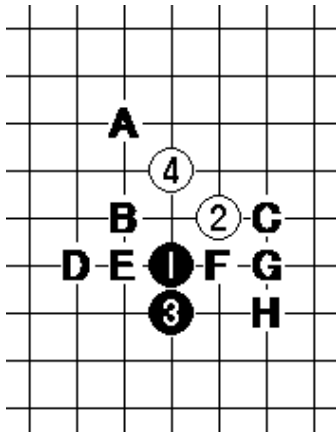
九段 河村典彦

● 第90回 ●

■ 白4コスミで八題

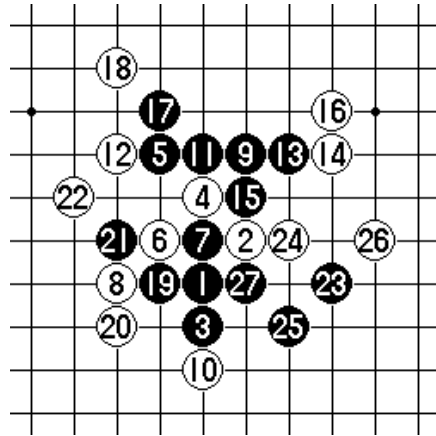
今回はまず、最近よく打っている銀月八題の形から紹介しよう。

白4を白2の左斜め上に打つ形、囲碁で言ういわゆる「コスミ」の手である。これで八題というのがちょうどいい題数であることが最近分かってきた。結論から言うと、譜のA〜Hが候補となる。



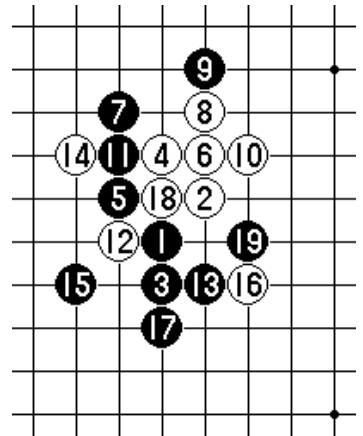
特にAはかなり離れてるので黒がダメなように見

えるが、案外打てる。1月の阪神カップで阪本さんと打った譜が次の譜である。



一見白8から10で問題ないように見えるが、実は黒11から追い勝ちとなる。白12をどちらに止めても大差がない。白の剣先がまったく利用できないのが白にとって辛い。

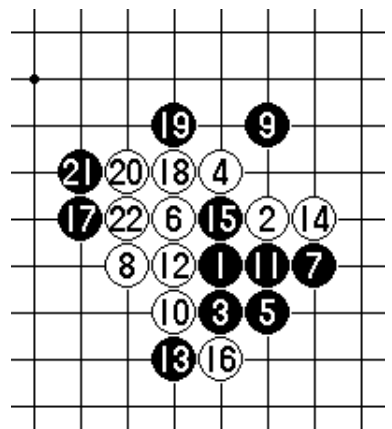
また、冒頭の図で黒5を、Bも黒が悪そうに見えるが、これも白の猛攻をしのげている。1月例会で奥村さんと打った譜をご紹介しよう。白6と固まって一瞬黒が



危なそうに見えるが、黒7とこちらから叩いておいて問題ない。白8に黒9を反対は三々禁に嵌まってしまいが、黒9で受かっている。山月の定石によく似ている。白10を11なら、黒どちらに止めても問題ない。奥村さんは白10、12と来たが、黒13で黒は安心した。以下黒19まで黒勝ちである。

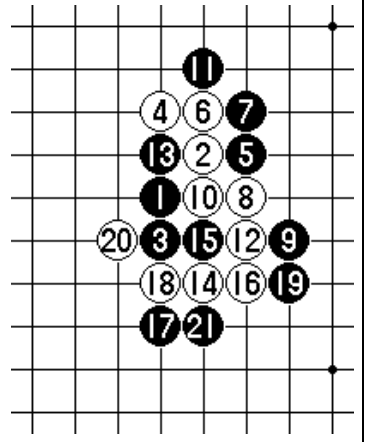
2局ともこんなに簡単に黒が勝てる五珠ではないがある程度調べておかないと白は対応できなくなる。

逆に次の黒5は打てそうに見えるが、白6がそれを上回るいい手で成立しない。黒7と固まって一発触発の



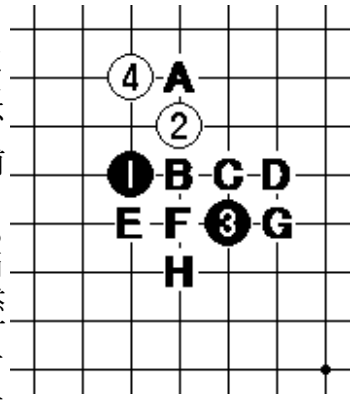
局面になるが、ここで先手が白になつていたので、白8と引く余地があるので大きい。続けて白22に引くと、黒中止めで先手を取られてしまうが、単に白10と三々を狙うのが白の常套手段だ。これで黒は困ってしまう。だから黒5は打てない。

黒の八題の中で一番黒が厳しそうなのが次の黒5である。これに対して白6で黒が困るようだが、黒7で戦える。白8で三々禁を狙えそうだが、うまくいかないので白8、白10と引くぐらいたらう。そこで黒11と止めておけば、互角に戦え

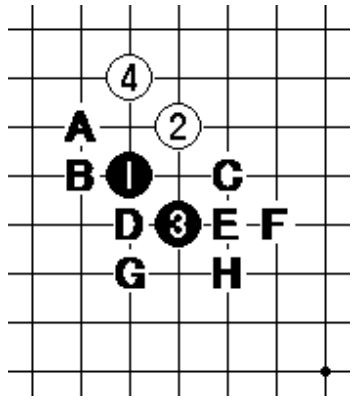


る。京都リーグの長谷川戦では、結局長谷川氏は白6で10と打ち、疎星に戻している。譜の白6ではあまり白に良くない展開になると考えたのだろう。白としてもそれが最善かもしれない。銀月で八題が可能ということであれば、他の珠型ではどうなのだろうという疑問が湧く。多くの珠型でこの白4に対し八題が成立するならば、覚えておいて損はない。

例えば、水月あたりでも白4に八題は成立しそうだ。ざっと考えた所でもA〜Hまで打てそうだから、八題は十分可能だろう。

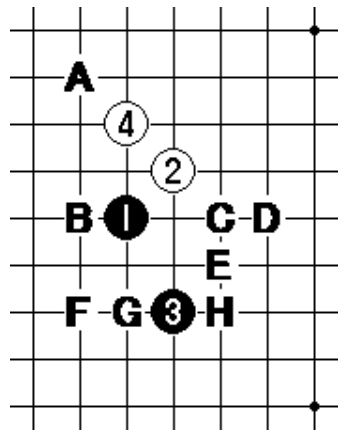


また、浦月も当然打てそうで、同じくA〜Hで八題は可能である。

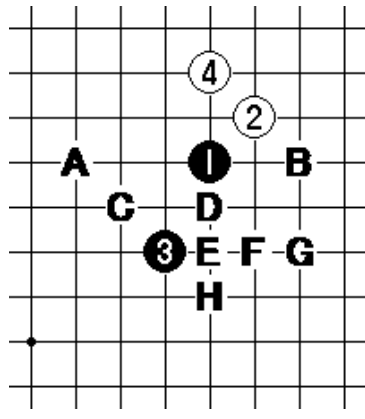


さらに、嵐月でも可能なようである。(図は右下)

ただし、五珠候補は目につく場所が少なく、かなり事前の学習が必要だ。ここまできると、全部調べたくなる。

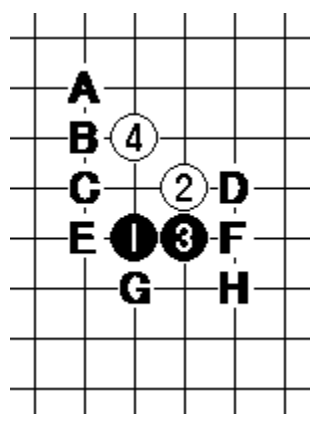
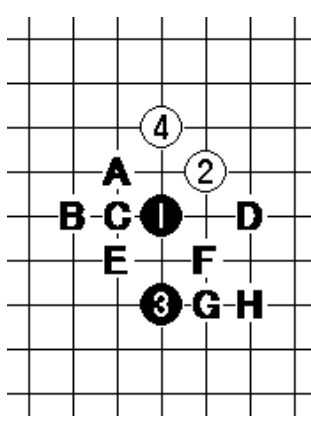


白4で八題が成立するか一番微妙なのが名月だろう。



五珠候補が下の方に集中しているのがわかるだろう。特にGなどは通常考えられないが、八題まで広げるという条件に無理やり出した感もある。だが、これで成立しているならば、八題があ

る意味妥当とも言える。その他、明星や雲月も八題が打てそうで、かなりの珠型が白4と八題をセットで指定できる。それを知っていれば相手から珠型を指定された時にうるたえずに済む。



ただし、その先を調べないといけないので、使用する際は変化されることを含めご注意を。